

弘法大師 [靈宝館]

仁和寺の靈宝館には、弘法大師（774～835 年）の像が収められている。この像は畳の上に座り、思慮深い表情で視線を外に向けている。片手にヴァジュラと呼ばれる儀式用の用具を持っている。これは仏教の知恵の浸透する力を象徴する法具である。もう一方の手には数珠を握っている。生前、弘法大師は空海と呼ばれていた。弘法大師という名前は死後に付けられた尊称であり、「仏教の法の偉大な教師」という意味がある。弘法大師の日本の仏教における重要性は、いくら強調しても強調しすぎることではない。彼は初めて中国に渡り、その地で仏教の高僧から直接の教えを受けた日本の僧侶のうちの一人である。日本に帰国するとき、空海は数多くの書物や本、絵画などを持ち帰り、それが、空海が創設しその後 1000 年以上続くこととなる密教の一派、真言宗の基礎となった。空海の死後、自らも崇拝の対象となり、彫刻としても絵画としても、その肖像が数多くつくられるようになった。